

令和 6 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース	
A グループ研究 A	
校園コード (代表者校園の市費コード)	
511001	
選定番号	A111

代表者	校園名 :	大阪市立桜宮中学校
	校園長名 :	向井 秀俊
	電話 :	6921 - 6934
	事務職員名 :	櫛谷 葵
申請者	校園名 :	大阪市立桜宮中学校
	職名・名前 :	首席 小野 裕司
	電話 :	6921 - 6934

令和5年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和5年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）													
2	研究テーマ	さくらのみや農園 ～農作物の自給自足を通して学ぶSDGs～																
3	研究目的	1. 土づくりから作物を育てることで、毎日食べている食材が流通する社会的仕組みを知る。また、その体験を通じて、世界的な課題と向き合っていく。（キャリア教育） 2. 生き物を育していく過程で発生する諸問題に、科学的見地に立ち、主体的に問題解決を図る。（理数教育の推進、「主体的・対話的で深い学び」の研究） 3. 自然に触れ合うことによって、道徳的観点である「生命の尊さ、自然愛護、感動・畏敬の念」を醸成する。（道徳教育の推進） 4. 学年全員で協力しながら、作物を育てることで、インクルーシブ教育の推進を図る。（インクルーシブ教育の推進） 5. 収穫した食材を調理し、食することで、感謝の気持ちを育む。（食育の推進、エディブル・スクールヤード）																
4	取り組んだ 研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSコラム 9.5ボイント) ・9月 意義付け 1年生(77期生)の取り組みとして、「野菜作り」を行い、「野菜作りを通して世界的な課題「SDGs」に向き合う力を養う。」という目的を生徒に発表した。 ・9月～10月 農地開墾(石拾い、たい肥) 1か月以上の時間をかけて、農地開墾を行った。土づくりから行うことで、畑をつくることの大変さを感じることができた。また、学年全体で声を掛け合いながら作業を行うことができた。特別支援学級生徒や、不登校生徒も自分たちなりの時間・方法で参加をした。 ・10月 植え付け・種まき（ジャガイモ、大根・ホウレンソウ・白菜） 種まきを行った後は、水やりを継続的に行なった。全ての作業が生徒にとって新鮮なようで、いきいきと活動する姿が見られた。 ・11月～12月 班で協力しての水やりを行った。 ・1月～2月 収穫と調理実習 1月19日には、外部講師（大和農園㈱の内田健志さん）による生徒向けの講演会を行い、「植物が育つための条件」や「野菜作りの今とこれから」についてお話をうかがった。また、研究発表会では、教員向けにより専門的なアドバイスもいただいた。農園を見学していただき、白菜の成育状況がよくなかったことから、「寒さ」を指摘していただき、「不織布」をかける対策を教えていただきすぐに実践に移した。学年全員で収穫作業を行った。また、後日家庭科とのコラボレーションで「リレー調理実習」を行った。午前中から3クラスが1時間ずつ調理を行い、大根・白菜のミルフィーユ鍋、じゃがバター、白菜のナムルの3品を作った。自分たちが作った新鮮な野菜を自分たちで調理することで、最高の調理実習(収穫祭)となった。																
5	研究発表等 の日程・ 場所・ 参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。 <table border="1"> <tr> <td>日程</td><td>令和 6 年 1 月 19 日</td><td>参加者数</td><td>約 10 名</td></tr> <tr> <td>場所</td><td colspan="3">大阪市立桜宮中学校 多目的室</td></tr> <tr> <td>備考</td><td colspan="3"></td></tr> </table>	日程	令和 6 年 1 月 19 日	参加者数	約 10 名	場所	大阪市立桜宮中学校 多目的室			備考							
日程	令和 6 年 1 月 19 日	参加者数	約 10 名															
場所	大阪市立桜宮中学校 多目的室																	
備考																		

6	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>さくらのみや農園づくりや、農作物の自給自足を通して、社会的仕組みを理解することができる。また、体験活動を通じて世界的な課題と向き合うことができるようになる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>年度末の学校アンケート「学校は、実験、観察、実習、校外学習や職場体験など、体験を重視した授業を行っている」の問い合わせに肯定的に回答する生徒を80%以上にする。(令和4年度77%)</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>年度末の学校アンケート「学校は、実験、観察、実習、校外学習や職場体験など、体験を重視した授業を行っている」の問い合わせに肯定的に回答する生徒は93.4%(よく思う61.3%、やや思う32.1%)となり目標を大きく上回った。自分たちで土地を耕し、育て、収穫し、調理して食べるという一連の体験は、用意されたものではなく、自分たちで行っているという実感がより一層感じられるものとなった。また、1月に行つた大和農園の方の講演を聞いて、農業の現在抱えている課題や、未来の農業についても深く知ることができたと感想文には多く書かれており、自分たちで農園を作っているからこそ、身近にその問題を感じることができた。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>「さくらのみや農園」づくりや、農作物の自給自足を通して、学校生活に対する生徒の満足度を上げることができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>年度末の学校アンケート「わたしは、学校生活を楽しみにしている」の問い合わせに最も肯定的な回答をする生徒を50%以上にする。(令和4年度45.8%)</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>年度末の学校アンケート「わたしは、学校生活を楽しみにしている」の問い合わせに最も肯定的な回答をする生徒は51.9%となり目標を達成することができた。また、1年生向けの校内アンケート「さくらのみや農園の授業は楽しい」の項目においても、肯定的な回答が100%(よく思う84%、やや思う16%)となった結果から多くの生徒にとって農園の取り組みを「楽しい」と感じていることがわかった。さらに、不登校生徒が「さくらのみや農園」の活動に興味を持ち、放課後ではあるが農園活動(水やり、雑草の除去等)をして帰るということ何度も度があり、全ての生徒にとって有意義な活動だと感じた。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>農作物の自給自足を通して、自然に触れることで自己肯定感を高めることができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>5月と12月実施の生徒アンケート「自分には、よいところがある」の項目において肯定的に回答する生徒の割合を5ポイント向上させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>5月実施の生徒アンケート「自分にはよいところがある」の項目において、肯定的回答は80.4%(よく思う28.7%、やや思う51.7%)であった。12月実施の生徒アンケート「自分にはよいところがある」の項目において、肯定的回答は85.4%(よく思う29.3%、やや思う56.1%)であったことから、5.0ポイント数値が向上したことで目標を達成することができた。「さくらのみ農園」の活動を通じて、生徒の笑顔を本当に多くの場面で見ることができた。「さくらのみ農園」に関わる、土壤づくり・種まき・水やり・収穫等、全ての場面において野菜を大切に育てることで自分自身を大切にすることを学ぶことができた。</p>
---	--

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>生き物を育てていく過程で発生する諸問題に、科学的見地に立ち、主体的に問題解決を図ることができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>5月と12月実施の生徒アンケート「私は困難に直面した際、あきらめずに問題解決に向けて取り組むことができる」の項目において肯定的に回答する生徒の割合を5ポイント向上させる。</p> <p>『検証結果と考察』</p> <p>5月実施の生徒アンケート「私は困難に直面した際、あきらめずに問題解決に向けて取り組むことができる」の項目において、肯定的回答は82.8%（よく思う29.9%、やや思う52.9%）であった。12月実施の生徒アンケート「私は困難に直面した際、あきらめずに問題解決に向けて取り組むことができる」の項目において、肯定的回答は85.5%（よく思う28.9%、やや思う56.6%）であったことから、+2.7ポイントとなったが目標を達成することができなかった。野菜作りを通して、あきらめない心の育成を行っていきたい。</p>
		<p>【研究全体を通した成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>【成果】 本年度の主な研究対象である本校の1年生は、都会の学校であるために、自然体験、特に第一次産業にかかわることが極めて少ない状態である。作物はスーパーで買うものという感覚が強く、季節による作物の「旬」を感じることも少ない状態であった。そのような生徒だが、実際に活動を始めると、積極的に参加する生徒が多く、みんな笑顔で活動を行っている。また、どんな生徒でも、活躍する場があり、みんなで協力して活動している姿（インクルーシブ教育の観点）は本当に微笑ましく、頼もしく感じることができた。また、野菜はあまり好きではないという生徒が多い中、自分たちで育てた新鮮な野菜を調理して食べるという体験は生徒にとっては、本当に貴重な経験となった（情操教育の観点や食育の観点）。</p> <p>【課題】 現在、1年生を中心に「さくらのみや農園」の活動を行っているが、学校全体の活動とするためにも、来年度は1・2年生合同の「さくらのみや農園」活動を行っていく必要がある。また、その際には農地の確保が課題となるため、校内の空き地の活用を進めていきたい。さらに、来年度は夏野菜を栽培していく予定であるが、夏休み中の水やりなどが課題となる。班や部活動などとも協力しながら、活動を進めていきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>【代表校園長の総評】</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する 事務手続き等の関係から今年度の活動は2学期からとなつたため、最も収穫が楽しめる夏野菜が栽培できなかつたことは残念である。しかしながら1年目であるため、自分たちの手で石を取り除いて農園づくりをする体験ができ、非常に貴重な経験となり団結力も生まれた。何より嬉しかったのは、アンケート結果からも分かるように全ての子どもたちがこの取り組みが楽しいと答えていることである。来年度はさらに春先からの活動を充実させて、より発展的な取り組みとしたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>